

夢童

菅波 茂

今月6日から4日間、ジュネーブの国連欧州本部（旧国際連盟本部）で開かれた国連経済社会理事会の会議に参加した。

テーマは「世界の公衆衛生」だった。3日目に世界20カ国の代表とAMDAを含めた7つのNGOが発表した。私は03年から3年間をかけて実施した「スリランカ医療和平プロジェクト」について発表し、終わるにあたり、全聴衆に対して「スリランカの人たちに輝かしい未来が訪れるように」祈念することをお願いした。今回の発表は、03年に続き2回目の国連経済社会理事会での記念すべきものだった。数多くのNGOの中から選ばれたことを誇りに思うと共に、AMDAにご支援を頂いた多くの方々に改めて感謝を申し上げたい。今後とも国連の場で積極的に発表を続けたい。

パリにもジュネーブにも都市として世界にメッセージを発する顔があることを再発見した。パリではセーヌ河に架かるアレクサンドル3世橋をはじめとする歴史的な橋とともに、ルーブル美術館、ノートルダム大聖堂などがある。パリのメッセージは「芸術」である。一方、ジュネーブは旧・新市街に別れる。旧市街は18世紀にルソーを育み、民主主義の土台を作ったことに代表される。新市街は旧国際連盟、国連難民高等弁務官事務所、世界保健機関、国際労働機関や赤字国際委員会など、その発するメッセージは「人権」である。「芸術」の「パリ」と「人権」のジュネーブ、ともに街自体の空間は決して大きくはない。個々の建築物の集合体として生み出される圧倒的なメッセージ力が、世界中から人々を呼び寄せていることは事実である。

政令市・岡山が世界に発信するメッセージは何か。岡山の精神風土は「福

パリ、ジュネーブ、そして岡山の顔

「福祉」のメッセージを世界へ発信することは大きな希望とな街こそ、パリやジュネーブと同じように、世界へ発信する岡山になる。世

界の福祉の象徴は「車椅子」である。岡山駅、市役所、清輝橋そして岡山シンフォニーホールに囲まれた空間を「車椅子で楽しめる都市空間」として徹底的に整備すればよい。そのことにより、西川緑道公園は一層の輝きを増す。「車椅子で楽しめる都市空間」は岡山市民にとっては生活改善運動である。

一方、日本、アジアそして世界から見れば、福祉の理念に基づいた市民運動である。福祉のソフトはすでにある。平均寿命世界一の日本が直面している介護の経験は、将来の急速な高齢化を控えたアジアが必要としている。旭川荘がアジアの福祉センターとして「福祉を共に考える」というメッセージをアジアへ発信し、林原共済会が芸術と福祉の統合化された「障害は進化」の衝撃的なメッセージを世界へ発信する。結果として地域振興になる。医療なくして福祉なし。岡山市市民病院は「岡山国際市民病院」として「国際福祉都市」岡山の旗艦として大きな役割を果たすことになる。AMDAとしても「世界が必要とする福祉都市」岡山のメッセージをジュネーブやニューヨークなどの国連の場で積極的に伝えることができ、AMDAグループ代表